

主 題：大切な選択

聖書箇所：ヘブル人への手紙 11章24, 25節

《今日は宣教デーです。私たちの教会の宣教活動を覚え、一人一人が自分にできることを考え、また祈るときです。世界の各地に遣わされている宣教師を通して素晴らしい救いが宣べ伝えられ、彼らを通して神のみわざが成されていますが、今日は私たちの支援する教会の一つであるフィリピンから、インドロ牧師ご一家をお迎えしています。インターナショナル・バプテスト教会はマニラにあります。礼拝には1000人以上の人が集まって来られます。彼らは神からの祝福で喜びあふれています。インドロ牧師はティカ牧師の後を継いで、牧会と伝道、幼稚園から神学校までの教育などをご家族とともになしておられます。》

ヘブル11：24, 25

「信仰によって、モーセは成人したとき、パロの娘の子と呼ばれることを拒み、25 はかない罪の楽しみを受けるよりは、むしろ神の民とともに苦しむことを選び取りました。」

私たちはここにモーセの生涯を見ます。彼はこの地上を生きた人間の中でも最も素晴らしい人物ではないかと思われまふ。しかし、ここで私が疑問をもつことはモーセが成人したときに、「**パロの娘の子と呼ばれることを拒み、**」とあることです。モーセはパロの娘の子としてこの地上で贅沢な生涯を送れたはずですが。このとき、モーセには権力があり、大きな影響力ももっていました。けれど、彼はパロの孫としての生涯より「**神の民とともに苦しむこと**」を選んだのです。この箇所を見ると、私たち自身がチャレンジを受けることは、どのような選択をするのか、ということです。これから先どのようなことが待っているのかということ踏まえた上で、どのような選択をするのかです。この「**選択**」という特権は、すでに人間に与えられているものです。神は私たちをロボットのように造られたのではなく、選択する自由を与えてくださったのです。このことは神が神の民に対して非常に良い方であることを証明するものです。それゆえに私たちは人生の最初から多くの選択をし続けてきたわけですが。私たちはどこで何をして遊び、どこで何を勉強するのか、どのような人と結婚するのか、自分の意志で決めてきたのです。すべての選択というのは私が決めなければならないことでした。もし、この生涯をしっかりと生きて行こうとするなら、私たちは選択をし続けなければなりません。私たち人間がもっている根本的な選択というのは、罪を犯すのか、犯さないのかという選択です。貧しくなるのか豊かになるのか、その選択をします。何が良いものであり何が悪いものであるのかという選択、それ故に、箴言1：29にはこのように教えています。「**なぜなら、彼らは知識を憎み、主を恐れることを選ばず、**」。

もし、私たちがこの生涯で幸せになり満足を得て過ごそうとするなら、四つの大切な選択をしなければなりません。

☆大切な選択

1. 救いの選択

これは地獄のさばきからの救いです。神は人間すべてが救われてほしいと願うがゆえに、神のひとり子であるイエス・キリストをカルバリの丘の十字架にかけて彼を殺すことによって、私たちに救いを与えてくださろうとしたことを私たちは信じています。もし、私はどのようにすれば救われるのか、どうすれば天国に行けるのか、と考えている人がいるなら、ピリピの牢の看守と同じです。使徒の働き16：30に「**先生がた。救われるためには、何をしなければなりませんか。**」と言った。」とあり、それに対してパウロとシラスは「**主イエスを信じなさい。そうすれば、あなたもあなたの家族も救われます。**」と言った。」。だから、あなたは選択をしなければなりません。イエスを信じるというその選択をしなければいけないのです。今日というこの日がイエスを信じる選択をする最善の日です。詩篇119：30で言われているように「**私は真実の道を選び取り、あなたのさばきを私の前に置きました。**」と、私たちはイエスのもとに来なければいけないのです。そして、罪を赦しを求め、イエス・キリストが私の心に住んでくださるように願い、イエスが私の主、救い主となってくださるように、救いの正しい道を選んで行くのです。私は日本の文化について学び、皆さんの周りに多くの神々がいることに気付きました。フィリピンのように…。だから、私たちは人々に言わなければなりません。地獄からの救い、天国へ行く方法はイエス・キリストにしかないということを。他のどの宗教でもありません。また、私たちの良い行ないでもありません。もし、人の善行が救いに導くものならイエス・キリストは十字架にかかって死ぬことはなかったのです。イエス・キリストの身代わりの死による罪の赦しが救いへの道です。イエス・キリストこそ、

人のたましいを救うことができる唯一の方です。その方は私たちを造られた方です。それが、私たちの主イエス・キリストです。もし皆さんが、救いを得たい、幸せになりたい、満足したいと思われるなら、あなたの生涯をイエス・キリストに渡さなければなりません。

ローマ3：23に「**すべての人は、罪を犯したので、神からの栄誉を受けることができず、**」とあります。そして、同じ6：23には「**罪から来る報酬は死です。**」とあります。けれども、もし、イエスに信頼するなら主は私たちを救ってくださるのです。Ⅱコリント6：2には「**神は言われます。「わたしは、恵みの時にあなたに答え、救いの日にあなたを助けた。」確かに、今は恵みの時、今は救いの日です。**」とあります。今が救いのときなのです。もし、あなたが地獄に行きたいのなら、何もしないでください。

2. 訣別する選択

ローマ12：2でパウロはこのように言います。「**この世と調子を合わせてはいけません。いや、むしろ、神のみこころは何か、すなわち、何が良いことで、神に受け入れられ、完全であるのかをわきまえ知るために、心の一新によって自分を変えなさい。**」。あなたがクリスチャンなら、周りの人があなたがクリスチャンであると分かるように生きてください。なぜなら、クリスチャンであることが素晴らしいということ、私たちはそれに誇りをもつべきだからです。Ⅰ列王記18：21にはこのように書かれています。「**エリヤはみなの前に進み出て言った。「あなたがたは、いつまでどっちつかずによろめいているのか。もし、主が神であれば、それに従い、もし、バアルが神であれば、それに従え。」しかし、民は一言も彼に答えなかった。**」と。もし、クリスチャンが神のみこころを求めて生きて行くことがなければ、幸せになることも満足して生きて行くこともありません。みじめな生涯が待っているのです。私たちは人々に対してクリスチャンであることを大胆に宣言して行くような人物にならなければなりません。この地上は私たちの家ではありません。そこを通り過ぎて行くだけなのです。私たちの本当の家は天国です。ですから、神のために訣別された、分けられた人生を歩んでください。神に喜ばれること、キリストのように歩んで行くことです。この世から分けられる、離れて行くこと、それをしなければなりません。

3. 神のためにいけにえとなる選択

ヘブル11：25に書かれています。「**はかない罪の楽しみを受けるよりは、むしろ神の民とともに苦しむことを選び取りました。**」。私が日本に来てこの滞在中に周りを見て、スラムなどはないことがわかりました。しかし、他の貧しい国ではクリスチャンたちがどのような生活をしているのか、ぜひ知ってください。多くの人たちは恵まれた生活を送っているから、イエス・キリストを信じたくないと考えます。神は貧しい者の神であるだけでなく、豊かな者の神でもあります。しかし、その豊かな環境の中で、その豊かさを犠牲にして、神に捧げて、心から霊とまことをもって神を礼拝する、そのようなときがやって来るのです。モーセの選択がなぜか分かりますか？彼は与えられている力の中に、お金の中に、物質の中に幸福を見出せなかったのです。神の民との交わりを喜び、神に仕えることを幸福と考え、それを選択したのです。この世はクリスチャンを認めないかもしれません。それゆえの苦しみを通らなければならぬでしょう。しかし、それは一時的なものです。この短い時間のあとで、私たちは天において神とともに永遠を過ごすこととなります。神の目的のために自らを犠牲にすることです。神はクリスチャンが有益なクリスチャンになることを願っておられます。クリスチャンの最も大きな目標は、神の栄光をほめたたえ続けることです。それが私たちがしなければいけないことです。

4. 仕える選択

私たちが幸せに、満足した生涯を送りたいと願うなら、仕える選択をしなければいけません。ヨシュア記24：15に「**もしも主に仕えることがあなたがたの気に入らないなら、川の向こうにいたあなたがたの先祖たちが仕えた神々でも、今あなたがたが住んでいる地のエモリ人の神々でも、あなたがたが仕えようと思うものを、どれでも、きょう選ぶがよい。私と私の家とは、主に仕える。**」とあります。なぜ、私たちはまだこの地上に置かれているのでしょうか？人間はこの世に生まれてきて、勉強して、仕事に就いて、結婚して、そして死んで行きます。皆、どんな人でも死んで行きます。この人生の中で何をしますか？なぜ、神は私を救ってくださったのでしょうか？救われた私たちの目標、責任は、他の人に救い主を証して行くという働きです。それが私たちの仕える奉仕です。私たちは教会に来て、単に礼拝するだけではないのです。この生涯で果たすべき働きは、神を礼拝し、伝道し、神に仕えることです。皆さんの教会は宣教師の教会です。ここにおられる多くの方は、宣教師として出て行く召しを受けているではありませんか？皆さんはこの働きに参加することができるのです。もし、宣教師にならなくとも、神の働きに加わることができます。教会をきれいに掃除することであっても、神のためにあらゆることができます。牧師がすべてをすることはできません。神に仕えて行くために皆さんが必要なのです。クリスチャンはだれであっても、神の働きに参加していなければなりません。宣教というのはすべての人が関わるべき働きです。皆さんは仕える選択をするべきです。ヨシュアは私たちに「あなたがたはだれに仕えるのか」と問うています。天の神か、それともこの世の神か、皆さんには選択があります。

本当の満足を得たい、幸福になりたいと思われるなら、これらの四つの選択をそれぞれの生涯の中でしなければなりません。覚えてください。皆さんのするその選択が皆さんの将来です。もし、まちがった選択をするなら、まちがった未来を生み出して行きます。